

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070502283
法人名	医療法人 聖心会
事業所名	グループホーム ベル・エポック
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区葛原東3丁目14番49号 (電話) 093 - 473 - 2500

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月31日	評価確定日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(平成20年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火造り
	3階建ての2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	(光熱費) 15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	久能整形外科消化器科医院 / 松尾病院 / 木本歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

フランス語で「美しい古き良き時代」を意味するグループホーム ベル・エポックは、小倉南区の閑静な新興住宅地に位置し、病院と隣接した3階建ての2階~3階を有する2ユニットとなっている。1階の玄関から明るい雰囲気、広々としており、中に入ると元気の職員の挨拶が飛び込んでくる。運営母体が医療法人であり、久能整形外科・火器科に併設され、健康や介護に関して24時間の支援体制がある。日々の健康管理をはじめ、リハビリなど機能維持に積極的に取り組み、医療との連携で重度化や終末期にも取り組み、医療法人ならではの大きな安心感がある。「安心・うるおい・楽しさ」をベースに多様なレクリエーションメニューも考案され、日々の暮らしを豊かに過ごすことができるよう取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価を真摯に受けとめ、理念のあり方や介護サービス計画の充実を図っている。また、地域との連携は新興住宅地で行事も少なく、入居者の状態変化などにより交流が難しい状況となっており、今後も継続し課題として挙がっている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義とねらいについては職員全員に理解してもらえるように説明をしている。自己評価は管理者が中心となり取り組んでいる。また、外部評価の機会を活かし書類などの整備も行っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>昨年の外部評価の指摘事項でもあり、市の実施指導でも指導を受け、定期的に運営推進会議を開催するようにしている。会議では、ホームの行事や入居者の紹介をしている。また、会議の中で「地域防災協定の締結」など意見をいただき、地域との協力関係の重要性を共有している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>月1回入居者の暮らしぶりがわかるようにスナップ写真を載せて便りを出している。新しい職員も写真付きで便りに載せて紹介している。家族との交流を図り、年に1回家族と共にパーベキューを開き17名の家族が参加している。このパーベキューの交流会や面会時に意見や苦情などを言っていただけのように取り組んでいる。職員とのコミュニケーションを通して管理者は、家族が直接言いにくい意見も把握できるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>新興住宅地で地域の行事が少なく、入居者の状態変化などにより、交流が難しい状況となっている。近くの中学生の職場体験を受け入れ、入居者にとっては大きな喜びとなっている。運営推進会議で災害時を想定して近隣地域の「地域防災協定の締結」に取り組んでいる。ホームは、地域の避難所的役割も担い、地域密着型サービスとしての役割も果たしている。今後は、地域の介護相談など、地域ケアの窓口としての機能を果たすことなど期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	現場の職員がグループワークで、自分たちが住みたく なるようなホームの運営方法について意見を出し合い、 独自の基本理念をつくりあげている。昨年の指摘事項 で平成18年度の法改正による「地域密着型サービス」 の主旨を織り込んだ理念となっており、改善に関して真 摯に取り組んでいる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えて いくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあ げている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	掲げた理念を職員間で共有できるように勉強会を開催 している。ケアプラン会議や月1回のミーティングで理 念を振り返り、理念の実践に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	新興住宅地で地域の行事が少なく、入居者の状態変化などにより、 交流が難しい状況となっている。近くの中学生の職場体験を 受け入れ、入居者にとっては大きな喜びとなっている。ホーム は、地域の避難所的役割を担い、地域密着型サービスとしての 役割も果たしている。今後は、地域の介護相談など、地域ケアの 窓口としての機能を果たすことなど期待したい。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、 老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	職員は外部評価の意義を理解し、評価結果を周知し、 運営推進会議のあり方や介護サービス計画など改善に 向けて積極的に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	昨年の外部評価の指摘事項でもあり、市の実施指導で も指導を受け、定期的に運営推進会議を開催するよう にしている。ホームの行事や入居者の紹介をしている。 また、会議の中で「地域防災協定の締結」など意見をい ただき、地域との協力関係の重要性を共有している。		定期的に会議を開催することは、難しい状況もあるが、多くの出 席が望めなくても定期的に開催していくことが重要である。会議 に出席できなかった人には会議録を送り、次の会議に気軽な 気持ちで参加していただくのも1つの方法と思われる。運営推進 会議は行政と住民の接点の場として、地域への働きかけの場と して更に活かしていくことが期待される。また、参加できない場合 は欠席届けを提出していただくなど工夫が求められる。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市の実施指導が行われ、そこで指摘された事項は、市と共に改善し、サービスの質の向上に取り組んでいる。介護保険の申請やケースワーカーとの面談など、ホームについての情報を提供している。地域包括支援センターの働きかけにより、小倉南区26ヶ所のグループホームの連絡協議会を立ち上げようと働きかけがあり、今後の展開に期待したい。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修案内は回覧を行い、職員に周知している。現在、厳しい勤務状況で研修参加が難しい状況にある。		入居者は全員認知症であるという労働環境であり、その方たちがどんな法令を活用して、守られているかを知ることが重要である。ミーティングの時でも、資料の読み合わせなどで勉強会を行うことが期待される。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	月1回入居者の暮らしがわかるようスナップ写真を載せて便りを出している。新しい職員も写真付きで便りに載せて紹介している。いつもと状態が異なる場合は、家族に逐一報告し、時には来所をお願いしている。金銭管理も領収書を添付して報告している。		
		事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族との交流を図り、年に1回家族と共にバーベキューを開き17名の家族が参加している。このバーベキューの交流会や面会時に意見や苦情などを言ってもらえるように取り組んでいる。職員とのコミュニケーションを通して管理者は、直接言いにくい意見も把握できるように努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	本年は離職があり、入居者へのダメージを少なくするため、約1ヶ月のダブル勤務で調整をしている。新しい職員は写真付きで紹介して、なじんでいただくように配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
11	19	人権の尊重	採用にあたっては、誠実でコミュニケーションができる人を第一に考え、その他の条件は付けていない。職員は働きながらスキルアップができるように研修や講習会の情報は回覧している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	勉強会やミーティングで「虐待防止」「身体拘束防止」など関係する資料の読み合せを行い、人権に関する意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	研修は、社会福祉協議会の年間計画にそって参加できるようにしている。研修案内は回覧している。新採用者には法人関係の研修会があり、参加できるように取り組んでいる。今後は事業所内の勉強会など工夫し、職員のモチベーションをあげることが大事かと考えられる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	交流会などの参加要請があれば、できるだけ参加している。他同業者とは夏祭りなどで交流している。また、運営で不明な点があれば同業者に連絡し相談している。今後は小倉南区のグループホームの連絡協議会の早期立ち上げを期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	他のグループホームの職員や入居希望有り、無しに関わらず、ホームの見学を受け入れている。また、お試し入居の機会を設け、実際の入居体験により、徐々に慣れて親しんでいただくように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者について、入居者の生活史の記録が書かれており、ミーティングを行い、何を望んでおられるかを考察する機会を設けている。また、入居者と職員は、お互いに支え合う関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居時に入居者や家族から得た情報や日々の生活から知れた希望・意向を把握し、可能な範囲内で対応している。デパートの買い物や銭湯など希望にそった支援を行っている。その人個人の理解を深め、その人らしい暮らしを支援するために、近日中に代表2人がセンター方式の講習会に参加する予定になっている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居時の「生活史シート・くらしの状況」や入居者と家族の普段の会話を通じて得た情報などから、入居者の心身の状態を把握し、月1回のミーティングや毎日の話し合いで意見を集約し介護計画を立てている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月に1回、定期的な見直しを行っている。また、入院などの変化の際にも計画の変更・修正を行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	本人の希望に応じて、買い物や受診を支援している。亡くなった夫の供養でお寺へ同行したり、他のグループホームに入られている夫の面会に同行し、柔軟な支援に努めている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	提携医療機関だけでなく、入居者のかかりつけ医にも同行している。特別な場合は所属長(医師)が、直接、かかりつけ医と話し合い対応している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	指針を定めており、終末期には、指針にそって対応している。家族から早い段階での意思確認を行い、意向にそった対応が可能か検討している。これまで数名の方の看取りを行っている。終末期にはこれまでの経験を活かし、細かな申し送りをし真摯に取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者は人生の先輩であることを念頭におき対応している。入居者が安心した時間を過ごすことができるように職員も感情を大事にし、どんな場合も平常心が持てるよう心がけている。対応が良かった時はさり気なく「ナイスです」と声かけをしている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	おおまかなホームのスケジュールはあるが、無理強いにはしていない。体力の低下防止やリハビリを兼ねて、「リハビリ総合実施計画表」を作成し、個々のペースで機能維持を支援している。「生活史シート 暮らしの状況」を再度見直し、これまでのその人の暮らしぶりや生活習慣を理解して支援していくことを期待したい。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	献立・調理は隣接する病院で行っている。調理はおやつ作りのレクリエーションで行っている。お膳の用意や後片付けは、少しだけでも入居者に協力してもらっている。食事は職員が同席し、同じ食事を和気合い合いと食べておられ、食事を共に楽しむ支援を行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴の予定は週3回と立てているが、希望しない日は強制していない。体調や意向などを観察し臨機応変に支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	「生活史シート 暮らしの状況」や日々の情報からその人の役割や楽しみごとを把握している。お客様意識を持っておられたり、入居者同士のケンカも生活力の表現としてとらえている。洗たく物たたみなど役割を担っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	レクリエーションを兼ねて川べりを散歩したり、買い物にも出かけている。天候によっては隣接する病院のリハビリへ出かける時に遠回りをするなど、気分転換を図っていただけるように取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	各ユニットが2階・3階に位置し、玄関がエレベータとなっている。そのため、安全を確保するために施錠を行っている。外出希望時は職員が同行している。居室は施錠してない。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署に届け訓練している。検証の形で非難経路や避難誘導・通報・消火方法など確認を行っている。グループホームの敷地内が地域住民の避難場所である。運営推進会議の中で「地域防災協定の締結」の意見があり、今後は、地域との協力関係の構築が期待される。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	専門栄養士による献立により、摂取量が確保されている。食事量・水分量はチェック表を用いて記録している。常時の飲み物として、ほうじ茶・ポカリスエットなどを用意し、必要な水分量の確保に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間は清潔で採光溢れるリビングと一段高くなった和室に掘りごたつがあり、広々とした空間となっている。壁には手作りの毎月のカレンダーや見るだけで心和む動物の写真がかけてある。廊下の端にはソファがあり、思い思いに団欒されている。必ず雪が降ると小さな雪だるまが飾られるとのことである。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	長年使い込まれた家具や電気製品や仏壇を持ち込まれている。部屋の収納棚は高い位置にあり、季節に応じて職員と衣替えをしている。それぞれの方の暮らしにそった住まいとしての工夫がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			